

【運営方針4】開かれた農大づくり

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】地域と連携した活動等による情報発信

評価項目	評価目標	具体的方策と指標・基準等	取組状況	評価	次年度に向けた改善策
1 農業教育機関との交流推進	(1)連携活動数:5計画	① 高大連携活動の実施【継続】 農業関係の高校生の就農等を促進するため、農業高等学校の農業クラブ活動に対して、プロジェクト発表会や意見発表会での助言など連携した就農支援を行なう。 高校生の林業に対する理解を促進するため、高校での林業に関する授業の実施や、刈払機、チェーンソーの安全操作を指導する。 ② 体験授業や出前授業の実施【継続】 農業関係高校等の生徒や教員を本校に招き、各学科の学習内容や学校生活、進路等について紹介するキャンパスツアーを実施する。 また、出前授業では、各学科の職員が高校を訪問し、講義や実習を通して農業や林業の役割・意義や学習内容等について紹介する。	・ 山形県高校農業クラブ連盟の強化練習会が開催され、東北連盟大会の意見発表及びプロジェクト発表へ出場する高校生に対して、本校副校長が助言等を行なった。 ・ 高大連携実技講習会(さくらんぼ・りんごの冬期管理講習会)を開催した。 ・ 高校生への林業・森林経営に関する授業は、5～9月にかけて、村山産業高等学校と置賜農業高等学校で実施した。 ・ 「農林大学校キャンパスツアー」を開催し、庄内農業高等学校、新庄神室産業高等学校、左沢高等学校の生徒に対して、本校の概要や学習内容、学校生活、施設の案内や卒業後の進路を説明し、本校への理解促進に努めた。 ・ 高校での出前授業を新庄神室高等学校等で実施し、本校職員が参加高校生に対して、果樹の栽培や稲の品種改良に関する講義を行った。	(1)・・・C 連携活動数:5取組み	・ 来年度の活動内容については、農業高校との連携強化推進会議で検討し、生徒が農林業を進路選択とするよう各種取組みを実施する。 ・ 高校生への林業・森林経営に関する授業は、高校と日程・内容を調整しながら来年度も実施する。 ・ 「第10回農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」は、山形大学、県内農業高等学校等と連携して開催する。 ・ 高校生の職業としての農業選択の機会を高めるため、来年度も高校と時期や内容を調整しながら開催する。
2 地域と連携した課題解決に向けたプロジェクト活動の実施	(1)プロジェクト実施数:7課題 (2)地域と連携した取組み数:3課題	①「地域連携課題プロジェクト」の実施【継続】 各学科が主体となって「地域協働研究」に取組み、専攻分野における課題を調査し、関係団体等と連携しながら、課題解決に向けた地域支援活動を行う。 ②地域と連携した取組み【継続】 「新庄・もがみフラワーフェスティバル」や「山形県ホルスタイン共進会」など、農や食に関する品評会への出品や運営スタッフとしての参加を通して、本校の取組みを紹介する。	・ 本校の全学科において、学生が各々の学習内容を生かし、プロジェクト活動に取り組んだ。主な取組みは下記のとおり。 (稲作経営学科) 升形小学校におけるポット稲栽培による食育活動 (果樹経営学科) 適正着果による高品質さくらんぼ果実生産に向けた現地実証、最上さくらんぼ品評会での参考出展 (野菜経営学科) 「角川かぶ(戸沢村)」の優良系統選抜と採種 (花き経営学科) 「新庄・もがみフラワーフェスティバル」における各種ワークショップ開催等 (畜産経営学科) 「やまがた地鶏」の知名度向上のための加工品メニューの考案等 (農産加工経営学科) 「産直まゆの郷」のにぎわい創出のための秋野菜料理の試食とレシピ提供等 (林業経営学科) パリス保育園園児を対象とした木育活動 ・ 花き経営学科では、新庄市と連携して「最上中央公園(新庄駅東口)」の飾花活動や「新庄・もがみフラワーフェスティバル」において、飾花等の作業補助を行った。 ・ 畜産経営学科では「山形県ホルスタイン共進会」への出品した。	(1)・・・C プロジェクト実施数:7課題 (2)・・・C 地域と連携した取組み数:3課題	・ 「地域連携課題プロジェクト」について、農林大の栽培や加工技術等の強みを活かして、さらに地域の課題解決につなげられるよう、課題内容について検討し、引き続き行っていく。 ・ 花き経営学科は、来年度も「新庄・もがみフラワーフェスティバル」に参加し、地域の活性化に寄与する。 ・ 畜産経営学科は、来年度も「山形県ホルスタイン共進会」で、県内トップレベルの取組みについて学ぶ。
3 ボランティア活動への支援	(1)取組み数:5取組み	① 学生主体のボランティア活動への支援【継続】 学生の社会経験が、今後の学習や進路選択に活かせるよう、学生のボランティア活動(品評会への出品・出展、さくらんぼサポーター活動、新庄まつりや新庄そばまつりの運営スタッフ、高齢者宅の除雪作業への参加等)を支援する。	・ さくらんぼの収穫労働力の支援として、「さくらんぼサポーター」を結成し、学生有志(10名)が、東根市の園地で収穫・調整作業に協力した。 ・ 「山形県農林水産祭・林業まつり」において、林業経営学科の学生が青年林業士とともにクラフト作成の指導や高性能林業機械のオペレーターを務めた。 ・ 関係機関や団体が開催する新庄そばガールズ(8～11月)、新庄雪まつり(2月)等について、ボランティア活動を行った。なお、予定していた高齢者世帯除雪支援(2月)は、少雪のため中止となった。 ・ 稲作経営学科の学生が、水稻新品種「雪若丸」のPR活動に参加した。	(1)・・・C 取組み数:5取組み	・ 「さくらんぼサポーター」については、県全体で取組んでおり、引き続き、学生の参加を促していく。 ・ 各種イベントでのボランティア活動は、学生のコミュニケーション能力や社会貢献意欲の向上につながっていることから、来年度も関係機関・団体と連携しながら、積極的に参加していく。

<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内農業高校と連携会議を行いながら、プロジェクト発表会等での助言やキャンパスツアー、高校での出前授業等の連携活動を当初計画通りに実施することができた。 地域の課題解決のため、地域と連携して各学科1課題、合計7課題に計画通り取り組んだ。また、地域と連携して「新庄・もがみフラワーフェスティバル」等の当初計画した3課題に取り組んだ。 さくらんぼの労働力支援等、各種イベントの支援に参加し、関係機関から高い評価を受けた。 	<p>評価</p> <p>C</p>
--	---------------------------

<p>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般向けの山の楽しみ方、木の見方の講座を林業経営学科の学生などに行って欲しい。 → 県内4箇所にある県民の森や毎年6月第1土曜日に開催している「やまがた森の感謝祭」等で一般向けの講座がすでに開催されていることから、広く周知されるようさらにPRしていく。なお、林業経営学科の学生主催で講座を開催する場合には、農大市場や農大祭の際の講座開催を検討する。 	<p>評価</p> <p>C</p>
--	---------------------------